

点検評価表（外郭団体）

I 団体の概要

（令和2年4月1日現在）

団体名	天竜浜名湖鉄道株式会社		
所在地	浜松市天竜区二俣町阿蔵114-2	設立年月日	昭和61年8月18日
代表者	代表取締役社長 長谷川 寛彦	県所管課	交通基盤部地域交通課
設立に係る根拠法令等	会社法、鉄道営業法、鉄道事業法		
団体の沿革	-		
運営する施設	鉄道施設（自己所有）		
団体ホームページ	https://www.tenhamaco.jp		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	39,700	39.7
沿線市町(6市1町)	39,700	39.7
民間事業者	20,600	20.6
基本財産(資本金)計	100,000	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	3	常勤職員	72
うち県OB	0	うち県OB	0
うち県派遣	2	うち県派遣	0
非常勤役員	8	非常勤職員	0
役員計	11	職員計	72

II 点検評価（団体の必要性）

1 団体の設立目的（定款）

地方鉄道業等を主に営むことを目的とする。

2 団体が果たすべき使命・役割

天竜浜名湖鉄道は、旧国鉄二俣線の線路を引き継いだ第三セクター鉄道であり、通勤・通学・通院など地域住民の日常生活の足として、重要な役割を担っている。
また、鉄道沿線は歴史的文化遺産や豊かな自然に恵まれており、鉄道はそれらを活用した地域活性化に寄与する取組を期待されている。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、旅客収入が対前年度比でマイナス1.4%となったが、過去10年間では3番目に多い収入額を確保することが出来た。
行政施策と団体活動との関係(役割分担)	地域の公共交通として安全で安定した列車運行を持続するため、老朽化した鉄道設備の改修や想定される大規模地震対策を計画的に推進するとともに、コスト削減の努力を継続しながら鉄道事業収入をはじめ総収入の増加に努め、収支構造の改善と公的負担の軽減を図る。 このため、県、沿線市町は、上下分離の考え方を土台に輸送施設の整備、維持・補修に要する経費(人件費を除く。)を支援する。また、天竜浜名湖鉄道は、輸送施設の整備、維持・補修経費を除いた営業費用について営業収入で賄えるような収支改善を行い、全体の人件費を営業収入の範囲で賄う責任を負い、社員の意欲を高める賃金施策が実施できるようにする。
民間企業や他の団体との関係(役割分担)	公共交通ネットワークを形成する企業として、他の企業と連携して、利用者にとって使いやすいダイヤ編成に努めている。

4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	R1 決算	R2 予算
県補助	地方鉄道事業	天竜浜名湖線(掛川～新所原 67.7Km)の運行	714,138	673,551
合 計			714,138	673,551

5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	H29	H30	R1	評価	
年間輸送人員(千人)	1,582	1,603	1,563	B	1,608 (R5)
	1,625	1,546	1,513		
年間旅客収入(千円)	452,059	461,950	417,325	B	437,207 (R5)
	432,079	417,142	411,158		
当期損益(千円)	△583	6,429	0	A	0 (R5)
	△4,610	5,510	4,373		

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>当期も有責運転事故がなかったことに加えて、2月中旬以降、新型コロナウイルス感染症の影響によって、外出自粛やイベントの中止に伴う旅客減や3月の全国一斉の学校の臨時休校により業績が大きく落ち込んだが、1月までの実績もあって、当期損益は2期連続で黒字となったことは評価出来る。</p>	○	<p>2月以降の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、前年度と比べて旅客収入が△1.4%となったが、1月までの旅客収入は前期比1.5%増と順調に推移していたこと、また、コロナの影響を受けてからは特に経費節減を徹底し、2期連続で当期損益が黒字となっている。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたにも関わらず、旅客収入は過去10年で3番目に高く、多くの沿線住民や観光目的のお客様に支えられている。</p> <p>旅行雑誌や地元を中心とするテレビなどに取り上げていただく機会には、沿線の食事処や見どころなどを取り上げていただけることも多く、沿線の観光振興、地域振興にも寄与している。</p> <p>更に、沿線企業4社、掛川市と連携して、ラッピング列車に取り組んでいるほか、沿線の寺社、施設、店舗などと連携して、沿線を歩くイベント、「天浜路ヘルシーウォーク」を開催するなど、様々なかたちで地域との連携に努めており、団体の必要性は、これまで以上に高まっているところである。</p>	○	<p>天竜浜名湖鉄道は、モータリゼーションの進行などにより採算が悪化し、国鉄再建法に基づき廃止かバスへの転換か、あるいは第三セクター鉄道会社への転換かの選択を迫られた旧国鉄二俣線を存続させるため、県と沿線市町、地元企業の出資により開業した、地域が支える第三セクター鉄道であり、沿線地域の基幹的な公共交通機関として、地域の振興と住民福祉の向上に貢献している。また、日本の原風景ともいえる景観を楽しむことができるほか、全線にわたり文化財登録された鉄道施設は、地域の景観形成に寄与する貴重な財産であり、地域活性化や交流人口の増加に寄与している。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
-		
-		
-		

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

1 財務状況

（単位：千円）

区分	H29 決算	H30 決算	R1 決算	評価	備考(特別な要因)	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	-3,433	6,687	5,550	A	
	経常損益 (a+b-e-f)	-157,334	-223,833	-254,230	C	
	公益目的事業会計	-	-	-	—	
	収益事業等会計	-	-	-	—	
	法人会計	-	-	-	—	
	剰余金	76,065	81,575	85,948	A	

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区分	H29 決算	H30 決算	R1 決算	主な増減理由等	R2 予算	
資産の状況	資産	568,310	463,109	601,686		598,900
	流動資産	506,464	404,251	546,680	補助事業、受託事業の未収入金	546,681
	固定資産	61,846	58,858	55,006		52,219
	負債	392,246	281,533	415,737		412,951
	流動負債	361,320	248,582	378,704	補助事業、受託事業の未払金	377,248
	固定負債	30,926	32,951	37,033		35,703
	正味財産/純資産	176,065	181,575	185,948		185,949
	基本財産/資本金	100,000	100,000	100,000		100,000
	剰余金等	76,065	81,575	85,948		85,949
運用財産	0	0	0		0	
収支の状況	事業収益 (a)	476,018	461,153	458,323	新型コロナウイルス感染症の影響による	459,924
	うち県支出額	0	0	0		0
	(県支出額/事業収益)	(.%)	(.%)	(.%)		(.%)
	事業外収益 (b)	526	425	1,585		0
	うち基本財産運用益	-	-	-		-
	特別収益 (c)	392,558	992,742	639,180	受贈財産評価額の減(新利木架道橋)	453,435
	うち基本金取崩額	-	-	-		-
	収入計 (d=a+b+c)	869,102	1,454,320	1,099,088		913,359
	事業費用 (e)	633,878	685,411	714,138	車両全般検査、駆動系オーバーホール	673,551
	うち人件費	390,843	395,016	402,052		399,643
	(人件費/事業費用)	(61.7%)	(57.6%)	(56.3%)		(59.3%)
	事業外費用 (f)	0	0	0		0
特別損失 (g)	238,657	762,222	379,400	固定資産圧縮損の減(新利木架道橋)	238,632	
支出計 (h=e+f+g)	872,535	1,447,633	1,093,538		912,183	
収支差 (d-h)	(3,433)	6,687	5,550		1,176	

2 経営改善の取組の実施状況と評価

収入増に向けてマスコミへ積極的な資料提供を行っており、令和元年度は217回、新聞に掲載されている(平成30年度は139回)。
 また、ツイッターやフェイスブックなどのSNSによる情報発信にも積極的に努めている。
 加えて、沿線の草刈りに地元自治会等と連携することで、経費節減に努めている。
 これらの収入増、経費節減の取り組みは評価できる。

3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

--

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	<p>コロナ禍の中において、当期損益で黒字を確保することが出来たことは評価できる。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症は、経営の健全性に悪影響を与えており、今後、影響が長期化したり、深刻化する場合には、経営の健全性に大きな影響を与える可能性がある。</p>	△	<p>令和元年度の旅客収入は前年度に比べ1.4%減となっているが、過去10年間で3番目に高い水準となっており評価できる。一方で、老朽化した施設の維持、修繕に費用がかかっていることから、更なる経費節減に努めながら、安全運行を確保するための施設維持や修繕に努める。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
-		
-		
-		

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

IV 改善に向けた今後の方針

1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>コロナ禍の中、大変厳しい状況にあるが、安全・安定した列車運行に努めるため、計画的な設備投資や社員に対する教育訓練を行うことで、安全の確保に努めていく。</p> <p>また、国や県が進める、アフターコロナの誘客に積極的に取り組んでいく。</p>	<p>コロナ禍の厳しい状況にあるが、経営計画2019～2023に基づいた事業運営に努めていく。経費削減に努めながら安全運行を確保するため施設維持や修繕を進めるとともに、ニーズに対応した魅力の発掘や観光客の誘客、メディア等を活用した積極的な情報発信などで旅客収入の増加につなげ、経営改善を図る。</p>

2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>支出の削減については、正社員の欠員補充の先送り、時間外勤務の縮減により、人件費の削減に努め、車両の走行計画、検査計画を見直すとともに、駅舎及び施設整備のうち、可能なものを翌年度以降に先送りする。</p> <p>収入の確保に向けては、旅客収入に加えて、インターネットショッピングサイトを開設し、商品のほか、鉄道関連の中古用品の販売等を行っていく。</p>	<p>やむを得ず安全運行に直接影響しない駅舎の施設整備を先送りするなど、経費の削減を徹底している。</p> <p>また、旅客収入が落ち込む中、商品開発などあらゆる手段で収入確保を図っており、評価できる。</p>

V 組織体制及び県の関与

1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	H29	H30	R1	R2	備考(増減理由等)
常勤役員数	3	3	3	3	
うち県OB	0	0	0	0	
うち県派遣	2	2	2	2	
常勤職員数	68	74	73	72	
うち県OB	0	0	0	0	
うち県派遣	0	0	0	0	
県支出額	199,607	173,777	222,314	234,647	
補助金	199,607	173,777	222,314	234,647	
委託金	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	
県からの借入金	0	0	0	0	
県が債務保証等を付した債務残高	0	0	0	0	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・債務残高は期末残高

2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	平成30年度に策定した「天竜浜名湖鉄道経営計画(2019～2023)」に人員配置計画を定め、組織体制の効率化に努めている。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	危機管理能力を備えた的確な業務執行を確保するため、常勤取締役2名体制としている。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	-	該当なし

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	危機管理能力を備えた的確な業務執行を確保するため、常勤取締役2名体制は必要、有効と認められる。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	平成30年度に策定した「天竜浜名湖鉄道経営計画(2019～2023)」に定めた補助金支出額により、計画的及び効率的に事業を進めている。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	-	天竜浜名湖線市町会議による外部評価委員会をR2年1月に開催した。	・2017年の「直虎特需」の反動減が心配されたが、旅客収入、輸送人員ともに特需以前と比べて増えているのは、少子高齢化が進んでいる社会状況を踏まえると非常に良かった。 ・引き続き、安全対策に努めてほしい。
利用者アンケート	-	-		
利用者等意見交換会	○	-	毎月開催される天浜線サポーターズクラブ定例会で意見を聴取している。また、掛川市や森町の「天浜線を愛する会」総会で経営状況を説明し、出席者と社長が意見交換を行っている。 なお、いずれも天竜浜名湖鉄道株式会社の主催でないため、公表にあたっては主催者との調整が必要である。	最近では駅のホームが暗い、駅にイルミネーションを設置したいなどといった意見があり、個別に検討、対応を行っている。
その他 (お客様御意見箱)	○	-	各有人駅において、設置している。	増便をしてほしい、この時間に列車を運行してほしいといった要望があり、毎年のダイヤ改正時に反映できないか検討をしている。

○:実施している／公表している -:実施していない／公表していない

2 事業やサービスの見直し例

【利用者意見等活用の具体例】

- ・駅ホームや駅舎へのイルミネーションの設置
- ・駅舎内の椅子の改修、駅ホーム電灯のLED化、駅構内への雨天時の滑り止めの実施
- ・天浜ヘルシーウォークコースへの意見反映
- ・イベント列車のカラオケ曲の更新
- ・見やすい時刻表制作
- ・路線図の掲出
- ・利便性を向上したダイヤ設定